

学部留学生を対象とする言語文化科目「日本語」

許 明 子

本授業は学部在籍している外国人留学生が取得しなければならない言語文化科目として履修する科目である。2020年度と同様に、書く能力の向上を目指す「文章表現」と、プレゼンテーション等の口頭能力の向上を目指す「口頭表現」の2科目を同時に受講し、言語文化科目としての「日本語」が履修できるようになっている。2021年度の授業は新型コロナウイルス感染症の

影響を受けて春学期も秋学期もすべての授業がオンラインで実施された。学部の授業のみならず、すべての授業がオンラインで開講されることになったが、受講生同士のインターアクションを通じた学びを重視し、原則として同時双方向の参加型の形態で授業を実施した。

2021年度の授業担当者は以下の通りである。

2021年度 言語文化科目 日本語 時間割と担当者

期	対象	時間	担当者	内容	単位数	受講者数
Ⅰ期 (1年前期)	文系	月3限	石崎俊子	文章表現	1.5	7名
		木3限	俵山雄司	口頭表現	1.5	7名
	理系	火2限	許 明子	文章表現	1.5	4名
		木2限	鷺見幸美	口頭表現	1.5	4名
	工学	月2限	佐藤弘毅	口頭表現	1.5	5名(うち日研生4名)
		水2限	許 明子	文章表現	1.5	8名(うち日研生7名)
Ⅱ期 (1年後期)	文系	金2限	俵山雄司	文章表現	1.5	8名
		木3限	石崎俊子	口頭表現	1.5	9名
	理系	火2限	許 明子	文章表現	1.5	4名
		木2限	鷺見幸美	口頭表現	1.5	4名
	工学	月2限	許 明子	口頭表現	1.5	3名
		水1限	佐藤弘毅	文章表現	1.5	13名(うち日研生11名)
Ⅲ期 (2年前期)	文系 全学部*	木1限	許 明子	文章表現	2	8名
		月5限	許 明子	文章表現	1.5	8名
Ⅳ期 (2年後期)	文系 全学部*	火1限	許 明子	文章表現	2	8名
		月5限	許 明子	口頭表現	1.5	8名

*単位補充科目

【クラス】

文系：文学部・教育学部・法学部・経済学部・情報文化学部社会システム情報科

理系：医学部・理学部・農学部・情報文化学部自然情報学科&コンピュータ科学科

工学(国)：工学部(国費留学生・政府派遣留学生)

工学(私)：工学部(私費留学生・日韓理工系留学生)

授業内容は大学で学ぶために必要な日本語力のブラッシュアップと向上を目指すものである。大学で講

義を聴く、ノートをとる、また意見を述べるプレゼンテーションを行う等の活動ができることを目指すとともに、アカデミックスキルを向上させるためのレポート作成、調査発表等も含まれている。

2021年度から変更された内容は次の3点である。一つ目は、日本語科目の授業担当者の全員が専任教員になったことである。16科目すべて国際言語センター及び人文学研究科に所属している専任教員が授業を担当し、学部在籍している外国人留学生の在籍や履修管理にも積極的に関わるようにした。二つ目は、学部の授業に日本語・日本文化研修生が聴講生として参加し

たことである。学部日本語の授業を履修する学生は韓国や中国の留学生が多いが、日本語・日本文化研修生が授業に参加することによって非漢字圏の留学生と漢字圏の学部留學生と一緒に学ぶ機会が与えられた。日本語の授業を通して異文化間交流を行うと同時に多様な考えや意見に接する機会も増加した。3つ目は、コーディネーターの交代である。浮葉教授から筆者に責任者が交代し、日本語部会の主査も筆者が担当することになった。

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて来日が遅れた学生もいれば、学習意欲を保つのが難しい学生も少なからず存在した。今まで経験したことのない未曾有の事態であったが、様々な面で外国人留

学生の支援を行うことができた。日本語能力の向上はもちろんのこと、関係部局と連携して留学生の生活支援、メンタル面でのサポートも同時に行うことができた。未だに新型コロナウイルス感染症の影響は続いているが、そんな中でも新たな動きも見えてきている。また、2022年度からは教養教育院で開講しているカリキュラムの大幅な変更が予定されている。学部日本語の主担当部局である国際言語センターの専任教員が中心になって、カリキュラム、シラバスの改革を行う予定である。アフターコロナに備えつつ、外国人留学生のアカデミックスキルのさらなる向上を目指したカリキュラム改革を行いたい。